

## 令和5年度 第2回小平市総合教育会議 議事録

### 1 日 時

令和5年12月26日（火）午前10時から11時25分

### 2 場 所

小平市役所 5階 504会議室

### 3 出席者

(構成員) 小平市長	小林 洋子
教育委員会	
教育長	青木 由美子
教育長職務代理者	三町 章
委 員	青木 雅代
委 員	望月 克浩
委 員	吉本 一謙

(構成員以外の出席者)

有川企画政策部長、白倉教育部長、岡崎教育指導担当部長、安部地域学習担当部長、  
奥村政策課長、竹中教育総務課長、事務局職員2名

(傍聴者) 2名

### 4 会議内容

午前10時 開会

(開会宣言)

#### ○小林市長

おはようございます。市長の小林でございます。

定刻になりましたので、ただいまより、令和5年度第2回小平市総合教育会議を開催いたします。進行につきましては、会議の主催者である私が務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

教育長、及び教育委員の皆様には、日頃より小平市の教育行政の推進にあたりまして、ご尽力をいただき、改めて感謝を申し上げます。

さて、この度、10月1日付けで、新たに吉本委員を教育委員に任命いたしました。今回が初めての総合教育会議となりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、吉本委員に一言ご挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

#### ○吉本委員

おはようございます。10月に教育委員となり、青木教育長をはじめ、事務局の方にも温かく迎えていただき、たくさんのお話を教えていただき感謝しております。子どもたちのため、小平のためにがんばっていきたく思いますのでよろしくお願いいたします。

## ○小林市長

さて、本年度の第1回の総合教育会議では、小平市の教育に関する大綱（案）について、協議・意見交換を行いました。

教育委員の皆様より、様々な観点からのご意見をお聴きし、私の教育に対する思いと、教育委員の皆様の教育に対する思いについて、大きな相違はないということを改めて確認することができ、その結果として、教育委員の皆様賛同の上、新たな「小平市の教育に関する大綱」を策定することができました。

### （協議事項）

## ○小林市長

本日の令和5年度第2回の協議事項は、「部活動について」でございます。

部活動は、教育課程外の学校教育活動の一つと位置付けられるもので、その教育的意義が高いことは明らかであるものの、社会状況が大きく変化する中、様々な課題が明らかとなっております。

本市教育委員会においても、国や東京都の動向を踏まえ、本年5月に小平市立中学校部活動地域連携・地域移行検討委員会を設置し、部活動に係る諸課題の整理及び今後に向けた具体的な方向性の検討を進めていると伺っております。

様々な体験を通じて、子どもたちは心と体を成長させていきます。部活動もその一つであり、小平市第四次長期総合計画が目指す市の将来像「つながり、共に創るまち こだいら」の実現にむけて、その主役となる「ひとづくり」に資する、重要な意義を持つものであると認識しております。地域社会を担い、将来にわたって多様に活躍できるひとづくりを推進すべく、今後の部活動の在り方について意見交換を行いたいと思っております。

それでは、まず始めに事務局から、中学校の部活動の現状などについて説明をお願いします。

## ○岡崎部長

それでは説明させていただきます。資料をご覧ください。

はじめに、「1 部活動の教育的意義」、学習指導要領の位置付けです。中学校における部活動については、中学校学習指導要領において、資料に記載のとおり示されており、「教育課程外の学校教育活動と教育課程の関連が図られるように留意するもの」と示されております。

また、その際、「学校や地域の実態に応じ、地域の人々の協力、社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行い、持続可能な運営体制が整えられるようにするもの」とも示されております。

そのような位置付けのもとに、中学校における部活動は部活動顧問教員の指導のもと、学校教育の一環として行われ、教師の献身的な支えにより、我が国のスポーツ・文化芸術振興を担ってまいりました。

次に、小学校でのクラブ活動の位置づけですが、資料の四角囲みの中の記載の通りです。

小学校も中学校と同様に運動系の活動と文化系の活動ができるように設定し、中学校の部活動と違う点は、教育課程に位置付けて、教員等の指導のもと実施していることです。

続きまして、「2 小平市教育委員会の取組」です。はじめに、(1) 第二次小平市教育振興基本計画における位置づけです。

基本的施策7「学校の経営力向上」には、「多様な主体との連携」を、基本的施策9には、「地域総がかりでの教育の推進」として、「地域スポーツ人材を活用した子どもの体力・運動能力の向上」

を掲げております。このように小平市は、これまでそしてこれからも、多様な主体との連携や地域総がかりで子どもたちを教育していくことを大切に、地域と連携しながら学校教育に取り組んでおります。

(2) 小平市立学校における部活動の方針の策定についてです。部活動の適切な運営のための体制整備、指導内容の充実、生徒の安全の確保、教員の長時間勤務の解消などを図るため、平成31年3月に「小平市立学校に係る運動部活動の方針」を策定しました。これは、スポーツ庁が平成30年3月に策定した「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」及び平成30年4月に東京都教育委員会が策定した「東京都教育委員会運動部活動の在り方に関する方針」に基づき策定したものです。また同様に、文化庁が平成30年12月に策定した「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」及び平成31年3月に東京都教育委員会が策定した「東京都教育委員会文化部活動の在り方に関する方針」に基づき、令和2年2月には「小平市立学校に係る文化部活動の方針」を策定しました。策定以降、各中学校はこの方針に則って部活動を実施しています。方針の内容ですが、大きく5項目に整理されており、1として、指導、運営に係る体制の構築について、2として合理的でかつ効率的・効果的な活動の推進のための取組、3として適切な休養日等の設定、4として生徒のニーズを踏まえた環境の整備、5として学校単位で参加する大会等の見直し、これらについてまとめております。

(3) 市による部活動支援についてです。大きく2つあり、第一に人的支援です。部活動指導員として令和5年5月時点で、市立中学校8校に9名を配置しております。この部活動指導員は令和元年から実施しています。部活動指導員は、顧問教員に代わることでできる人材です。顧問教員に代わって大会等への引率も単独で行うことができる役割を担っています。次に部活動外部指導員ですが、8校に5名配置しております。開始は昭和49年となっており、ありがたいことに当時はボランティアに近い形で地域の方や保護者の方が「子どもたちのために」と尽力してくださっていたと聞いています。役割としては、顧問教員と一緒に、より丁寧な指導や専門的な指導を行うこととしています。

財政支援についてですが、大会参加費や交通費、全国大会等へ参加する際の宿泊費等の補助や施設使用料の減免などが主なものとなります。

次に、「3 市立中学校における部活動の取組」についてです。8校の現状についてですが、(1) 部活動数は令和2年度の実績となりますが、運動部87部、文化部40部の計127部で、各校における部活動数は、平均すると1校あたり運動部が約11、文化部が5となっております。市立中学校の部活動一覧は資料3としてお配りしておりますので後程ご覧ください。

(2) 合同部活動の状況についてです。現在活動しているのが小平第二中学校、小平第四中学校、上水中学校の野球部です。合同にした理由は部員数の減少ですが、野球が好きな子どもたちが学校の枠を超えて活動しております。平日は各校で土日のどちらかは合同で活動しております。子どもたちの声としては、「平日はキャッチボールやバッティングなどの少ない人数でもできる練習を中心に活動していますが土日は人数が多くなり、試合形式もできるのでとても楽しい」という声があがっているとのことでした。

(3) 部活動の加入状況についてです。8校全体で87.8%となっております。東京都が平成30年に実施した調査で、86.9%の加入率があったので、ほぼ平均値程度であると認識しております。

(4) 令和5年度の大会等の実績です。先日も市長に表敬訪問をさせていただきましたが、小平第二中学校テニス部・水泳部、小平第三中学校吹奏楽部・水泳部、小平第四中学校陸上部など、全国にその名をとどろかせている部活動も多くあります。

次に「4 今後の部活動について」です。(1) 国・東京都の動きですが、こちらは資料4に概要をまとめておりますので合わせてご覧ください。中学校部活動は、健全育成に資する活動である一方で課題も様々指摘されております。例えば、平成29年4月には教員の勤務実態調査において、教員の長時間労働の勤務実態が明らかとなり、その後、中央教育審議会から教員の長時間労働の要因の一つに部活動に関わる時間が長いことが指摘されました。先程もご説明させていただいたスポーツ庁や文化庁のガイドラインや東京都教育委員会の在り方に関する方針の策定につながるものです。また、その後の動きとしては、令和3年10月にスポーツ庁において、令和4年2月に文化庁において、令和4年7月には東京都教育委員会において地域移行等に関する検討会議が開催され、それぞれガイドラインが策定されています。

(2) 市の動きについてです。これらの国や東京都の動きを受けて、小平市としても、今後の市立中学校の部活動の在り方、目指すべき方向などの方針を定めるために、令和5年5月、小平市立中学校部活動地域連携・地域移行検討委員会を設置しております。主な検討内容は②のアイ・ウ・エでお示しをしており、大きく4点について検討・協議を行っております。

最後にお配りした資料2をご覧ください。令和5年9月4日から15日までの期間で、小学校5・6年生の児童及びその保護者、中学校1・2・3年生の生徒及びその保護者、中学校教員を対象に、部活動に関するアンケート調査を教育委員会として実施しました。

はじめに小学校5・6年生児童への調査についてです。「中学校での部活動は楽しみですか」と質問したところ、約8割の児童から「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と肯定的な回答がありました。

また、スポーツに取り組むに当たっての考えを質問したところ、「厳しい練習よりも運動を楽しむことを大切にしたい」が68.5%で約7割、「練習は厳しくても、大会で優勝する、好成績を残すことを目指したい」が約3割との結果となりました。

次に、保護者に対して、「中学校の部活動に期待すること」について質問したところ、80%近くの保護者が「部活動を通じて仲間を増やすこと」や「部活動を楽しむこと」と回答しました。

中学校の生徒について、「部活動に所属してよかったこと」について質問をしたところ、「友達ができた」、「活動が楽しい」がともに70%を超える回答があった一方、「部活動で困ったこと」について問う質問には「学業との両立が難しい」と回答した生徒が最も多く48.4%で、次いで「生徒や指導者との人間関係」、「練習日数や時間が多い」がそれぞれ約30%弱という結果でした。

中学校の保護者に、「子どもが部活動に所属して課題に感じたこと」について質問したところ、「学業との両立が難しい」と回答した保護者が31.4%おり、「特にない」と答えた保護者が30.7%という結果となりました。

「中学校の部活動を地域クラブ等が担うことについて、期待することはありますか」という質問については、「専門的な指導が受けられること」と回答した方が67.8%と最も多く、2番目に多かった「技術力の向上」と回答した保護者は58.8%でした。

最後に、中学校教員について、「部活動の指導に負担を感じているか」質問したところ、「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」と回答した教員は76.1%という結果でした。

また、学校部活動の意義・必要性について考えを質問したところ、「学校管理下での活動に一定の必要性はあると思うが、地域クラブ等の活動でも教育的な活動は可能」と回答した教員が最も多く、48.4%となりました。

これらの結果から、学校の教員組織が変わっても存続し続ける持続可能な部活動の在り方を考えていくこと、教員の負担を軽減しながら子どもたちの健全育成等の役割を果たす部活動が必要

であることがわかりました。

今後の小平市立中学校の部活動の在り方、目指すべき方向などの方針については、これらの調査結果も参考にしながら、検討委員会において検討・協議を行ってまいります。

本日資料としましたアンケート調査の抜粋ですが、全ての質問への回答状況、また、検討委員会の議事録等は小平市のホームページに掲載しております。

## ○小林市長

それでは、皆様からご意見を伺いたいと思います。

まず、三町教育長職務代理者よりお願いいたします。

## ○三町教育長職務代理者

自分の経歴では運動部活動になりますが、部活動は教育課程外と言われるものの、大変重要な教育活動であって、基本的には充実させるべきだという立場で考えています。その中で、本日は大きく三つの柱でお話したいと思います。

一つ目は、アンケート結果にあります。部活動指導への負担感に関する考え方です。二つ目は、学校を裏から支える重要な教育活動だということ。三つ目に、部活動の充実に向けてどのように考えていかなければならないか。私なりの考えをお話させていただきたいと思います。

まず一つ目として、部活動指導の負担感について、このアンケート結果でも中学校の教員の負担感について書かれています。私は、この負担感は、生徒の成長を教員が実感すると、かなり減るものだという持論があります。このアンケート調査のような聞き方をすると、結果としてこのような数字が出てくるのだと思いますが、必ずしもそうだと思っていません。私自身、教員時代初任校で水泳部の顧問を五年間、二校目で女子バレー部の顧問を十年間と、十五年間部活動指導に関わりました。両方とも競技経験はなく、技術指導に関しては全くの素人でしたが、校長から「顧問がないからやってくれないか」と言われて引き受けました。水泳部については、たまたま私の妹が水泳選手で、東京学芸大学でもコーチング理論も学んでいましたので、妹から教わって、実際に子どもと一緒に泳いで技術を教えたり、関わったりしました。自分が技術を身に付けて指導することによって、水泳で言えばタイムが伸びていくことで子ども自身が喜び、それを教員としても喜びと感じたという経験があります。そのため、私は部活動を必ずしも負担に感じませんでした。夏休み中は、午前是一般指導の水泳、お昼は部活動指導、午後はまた一般指導の水泳、そこからまた部活動指導と、ほとんどプールサイドで一日過ごしましたが、それを全く負担とは思いませんでした。教科指導や生活指導の場ではないところで得られる教員の喜びなのではないかと考えています。

二つ目として、部活動は学校を裏から支える重要な活動だと捉えています。一校目もそうだったのですが、二校目は異動したとき荒れており、生活指導が得意だと言われていたようで、校長から、3年生の担任を任されるとともに、生活指導も任されました。また、生活指導主任からは「女子バレー部の3年生は非常に課題が多いので、3年生の担任だから一緒に見てほしい」と言われ、引き継いだのです。ちょうど大林選手が小平第二中学校に選手として在籍していた頃で、地区の公式戦で負けたというのが非常に印象に残っています。私自身、全くの素人でしたが、元気な子が大変多かったのも、その子たちに負けじと、とことん部活指導にのめり込みました。そうすることで、徐々に子どもたちの問題行動も減っていきました。大会の成績も上がってきて、3年後くらいには地区の大会で優勝することもできました。そうになると、子どもたちは部活動にプライドを持ち、そしてそれが学校生活にも反映して、リーダー的な活動をしてくれるようにも

なりました。部活動は、素人であっても、技術指導もとことん学んで指導すること。また、人格形成の役割も非常に大きなものがあるのだということを実感しました。学校で教育活動と同時に部活動で人格形成をする。非常に重要な指導であるというのが二点目です。

最後に、三つ目として、私は部活動を充実させたいという考えを持っています。今色々と議論されていますが、基本的には顧問が指導する意欲が湧くような体制をつくっていくことが一点目だと思います。私自身は、たまたま運よく水泳ができる妹がおり、部活動にのめり込む中で指導力のある先生や高等学校の監督・コーチと出会い、指導技術や部運営のマネジメントを身に付けていった経験があります。やはり技術的な指導や部活のマネジメント、あるいは生徒にどのような風に意欲喚起を促していくか、人間関係をどうやってつくっていくかというような様々な指導、安全確保や事故防止といったものを定期的きちんと学ばせられるような体制づくりが必要なのだと思います。今までは、中体連の一部の研修程度、あるいは個人の意欲だけで成り立っていますので、やはり教育委員会と近くの大学や関係機関等とが連携して、継続的に学べるような体制をつくるべきだと思います。さらに、そこに参加できる環境をしっかりとつくっていくことが一番大きいのではないかと思います。自信を持てば先生方は大いに関わるのではないかと思います。

二点目は、指導に当たる教員の処遇を改善するべきだと思います。私が現場にいた頃は、平日でも少しではありますが手当てが出ていました。1日200円ぐらいだったと思います。何か月か活動したら、頑張りが認められたという感じで、顧問みんなで飲みに行っていました。微々たるもので良いのですが、やはり努力が報われるような処遇をしなければいけない。また、今の法体系では、引率に対しては公務災害が適用されますが、運営のために審判をしてけがをした場合には公務災害が適用されません。そうした点については、市長会や教育長会などで国に申し入れをして改善していかなければならないと思います。

三点目は、外部指導者である部活動外部指導員や部活動指導員も、顧問と同じような科学的な指導技術をしっかりと受けられるような体制をつくっていかなければならないということです。学校が人を見つけてくるのではなく、外部指導者への研修などができる環境をつくっていかなければならないと思います。

最後に、アンケートでもありましたが、本当に色々なニーズが子どもたちにあるということであれば、地域全体でどのような形で提供していくかを徹底的に議論していくべきだと思っています。このことについては、これから市として取り組まれる委員会での検討に期待したいと思います。

まとめますと、部活動は重要で、今後もそうあり続けるべきだ、というのが一点目。現状、なんとなく顧問が積極的になりにくい環境を周りがつくっているのではないかと思います。教員が負担に感じているといったアンケート結果を示すなど、国や東京都、市もそうかもしれませんが、消極的にさせようとしているのではないかと感じるほどです。逆に「顧問としてもやってみたい」と思わせるような条件整備をしていただきたい。

生徒の多様なニーズに応えるためには、地域移行というのでも十分に考えていかなければなりません。しかし、働き方改革のために地域移行するのではないということは常にしっかりと言い続けてもらいたいと思います。教員が楽をするために地域に移すのではないかという誤解を招くと思うので、あの言葉は消すべきだと思っています。あくまでも子どものニーズに応えるためには、という方向での検討をしてほしいと思います。

## ○小林市長

教員の立場での個別具体的な例も挙げていただいております。やはり根本にある

のは、いかに部活動が重要かということだと思います。私も、自分自身も部活動をやっていましたし、子どもが部活動を行っている姿を見ていると、子どもに与える影響というのはすごく大きく、後々の自分の人生の中で部活動が占めた割合というのは大きいのだらうと思っています。また、三町委員が指導され、徐々に強くなっていったバレー部の子どもたちは多分今でも付き合いがあるのではないかと推察するところですが、そういった人間関係をつくることのできるのも部活動の魅力であると思っています。そうした中で、先程は「教員の負担感だけをクローズアップせずに地域移行を考えていった方がいい」というお話がありました。三町委員のお考えでは、顧問は顧問として残しての地域移行という形なのでしょうか。

### ○三町教育長職務代理者

学校でできないものについて、地域に受け皿があれば移すべきだと思います。しかし、顧問が学校で教育する部活動は、できるものは最後まで残していく。つまり、教員としての指導者を育成しながら、顧問が部活動に関わっていきける条件を整備する。以前、全日本中学校長会の立場で、教員の授業時間の軽減をするべきだと申し上げたことがありました。顧問は週何時間か授業時間を軽減するなど、やる気になるような形にして、意欲ある顧問のいる場合は、学校部活動として残すという考え方です。休日だけは外すといった問題ではないと思います。休日に行くのも良いと思いますし、学校部活動とは言えませんが、今後やる気のある教員が兼職兼業として、休日に別なところで指導するというのも良いのではないかと思います。地方では、クラブのような形で事実上教員が指導しているというケースはあるので、そういう形での運営は可能なのではないかと思います。

### ○小林市長

「部活動の地域移行は負担軽減のみがクローズアップされるのは違う」と三町委員はおっしゃっていましたが、がんばっている教員ががんばりたいと言いづらい雰囲気が出ていないかと思っています。部活の顧問をやりたいくて中学校の先生になったという人も一定数いらっしゃいます。一生懸命やりたくても負担軽減という言葉だけが独り歩きしてしまって、なかなか一生懸命ががんばりたいという雰囲気を出せないという先生もいるので、その辺は少し気を付けていかなければならないだろうと思いました。

それでは続きまして、青木雅代委員よりお願いいたします。

### ○青木雅代委員

三町委員の経験に基づいたお話でいろいろと勉強になりました。私は三町委員と同じで、部活動を非常に大切に感じており、色々と議論はされますが、このふるべの吹き出しにあるように、部活動は子どもたちの活躍の場であり、子どもたちの居場所であり、本当に大切な学校の教育活動の一つとして捉えていくものだと思います。小学校では友達と遊ぶというと、クラスが一緒になった子と遊んだりしますが、中学になると活動日や活動時間が同じ部活動の仲間と行動を共にすることが多くなると思います。自分が選んだ活動の中で、同じ目標や同じ趣味を持った仲間と活動して、その仲間とまた活動以外の時間を過ごせるというのは子どもたちにとって本当に居心地の良い場であると思っています。そのような部活動は、大切な仲間と過ごす子どもたちの居場所としても捉えられると思いますので、中学校生活の中では切り離して考えることはできないものだと思います。先程、部活動がしたくて先生になったという人の話もありましたが、一部の子だけかもしれないが、部活動が楽しくて学校に行く子や、将来は部活動の先生になり

たいと言っている子どもの声を聞いたことがあります。部活動においては教育課程との関連が図られるということもあって、教員の存在というのも非常に大きな意味をもつと思っています。今は教員の勤務時間の削減や、働き方改革に関わる問題として挙げられることもあると思いますが、部活動というのは、子どもたちの教室の中とは違った一面を見ることができ、その成長を見守ることができるという意味で、アンケート結果でも多くの先生はその意義や必要性を感じていると思います。その中で負担感を抱く先生もいますが、アンケート結果の詳細をホームページで拝見したところ、理由として「校務が忙しい」、「専門的な指導ができない」などの回答が見られました。先程の三町委員のお話にあったように、先生の意欲が湧くような環境があることで、そういう気持ちが改善されていくのではないかと思います。負担感があるという先生がいる一方、そう感じていないと答えている先生も一定数いらっしゃいましたので、部活動の意義や必要性を感じて指導したいという先生たちの気持ちが尊重されるような体制が整えられていくといいと思います。

市の取組として、昭和49年というかなり早い時期から部活動外部指導員を置くという支援を行ってきていますが、資料を拝見させていただいたところ、多いところでは1校で8名以上の部活動外部指導員を置いて活動しているところもあります。教員の異動に関わらず、活動の持続性や継続性が確保でき、専門的な指導ができるという意味では大変良い状況だと思います。こうした部活動外部指導員の積極的な活用と合わせ、先生の気持ちが反映されるような部活動の体制を今後考えることができると良いと思っています。

また、部活動の種目は、大体どこの学校も決まった種目が行われていると思いますが、その種目についても今後考えていけると良いのではないかと思います。今回配られたものではなく、ホームページで見た資料の中に、平成31年3月に市が作成した「小平市立学校に係る運動部活動の方針」があります。その中では、子どもたちの総運動時間が二極化の状況にあることや、特に中学生女子の約2割が週一時間未満という調査結果が示され、生徒の運動、スポーツに関するニーズは、競技力向上以外にも、友達と楽しめる、適度な頻度の活動というのが挙げられ、より多くの運動機会の創出を図ることができる、レクリエーション志向で行うことができる活動や、楽しく身体を動かす習慣の動機付けとなるような部活動の設置を進めていました。生涯にわたって運動する習慣を身に付けるためには小中学校時代の活動はとても大切だと思います。一つの種目に拘らず、気軽に身体を動かせるいくつかの運動を楽しめる活動を考え、活動日はあまり多くなく、種目ごとに地域から指導者を招くことができるような形の部活動も今後考えていけるといいのではと思います。

地域を見てみると、総合体育館や各公民館で、週1、2回ヨガやストレッチ、体操教室といった運動系の講座が開かれています。地域の方を招いて生涯にわたって身体を動かす習慣を身に付けられるような部活動も考えてみてもいいのではないかと思います。こうして新しい活動を考えると、また負担が増えるという印象があるかもしれませんが、以前からある部活動に関しては、今でも合同で活動する方法があるので、子どもたちが選択できる活動の数はある程度保ったうえで、新しいものも考えられると良いのではと思います。

市の長期総合計画の中に「つながり、共に創るまち こだいら」とありますが、その実現に向けて地域で子どもの育ちを支援し、全世代が活躍できる持続可能なシステムを考える中で、地域の理解が必要になってくると思います。またその中で部活動を任せることができる専門性のある指導者としての人材の発掘ができるようになっていくのだと思います。部活動に限らず、地域への教育活動の周知はより一層必要だと感じます。身近なところでは、教育委員会だよりを発行していますが、子どもが在籍していない家庭へ届くことがあまりないので、市報などを活用して教



育関係の取組をもっと広く周知し、理解してもらうことが必要かと思います。各世代の人たちが持っているスキルや時間をかけて、子どもたちを地域で育てていこうという想いを、より多くの方に伝えていけたら良いのではないかと思います。最初にも申し上げましたが、子どもたちの活躍の場であり、子どもたちの居場所である部活動を持続可能なものにするために、地域の人全体に今の状況を伝え、理解し、協力していただけるような体制をつくっていったら良いと思っています。

#### ○小林市長

勝ちにこだわらず身体を動かすというのはいいですね。軽い部活動といたらいいか、よくスポーツ系の部活動で話題となるのが、勝ちに行きたい子もいる、楽しみたい子もいる、そこは一緒にはなかなかできないというものです。勝ちたい子は一生懸命やりたいし、技術を向上させ、より専門的に、より高度な方にいきたいが、そこまでいかないが楽しみたいという子は一定数いて、その棲み分けができるのであれば、地域の力を使うというのは本当に良いアイデアだと思いました。部活動の地域移行で、今あるものをどう地域に移すかということではなく、今ミスマッチが起きている部活動をどう子どもたちのニーズに合わせていけるかという考え方についても、良いヒントだと思います。青木委員も何度かおっしゃっていた、居場所になるというのは非常に重要で、私自身も学校と家だけではない居場所は非常に必要だと思っています。もちろん部活動も居場所の一つになると思うのですが、今までの部活動だとどうしても学校の中の部活動となりますので、青木委員がおっしゃるように地域の人たちと作れるような居場所的な部活動の在り方というのは一つの考え方として本当に良いと思いました。そこで問題になってくるのは本当に人材ではないかと思います。人材をどう引っ張ってくるかという点に関してはいかがでしょうか。

#### ○青木雅代委員

例えば、小学校の放課後子ども教室などで、よさこいやスポーツを教えてください方を探しています。そのような考え方を中学校にも広げ、中学校でもそのような指導ができる人を探すというように、今まであったやり方を使っていけるのではないかと思います。ダンスのようなものが好きな子も多いので、よさこいもダンスの一つとして考えれば、よさこいスクールダンスフェスティバルや多摩六都ヤングダンスフェスティバルなども開催されており、市内ではそういうことに関わっている人もたくさんいるのではないかと思います。そういう、子どもたちが身体を動かす体験ができるようなところは、今の部活動のように引率が必要ということではない形ものが考えられるのではないかと思います。そうすると、指導者というか、教えてくれる人もいるのではないかと考えています。

#### ○三町教育長 職務代理者

その件で少しよろしいでしょうか。

#### ○小林市長

はい、どうぞ。

#### ○三町教育長 職務代理者

これからの学校と地域の連携というキーワードの中で、地域学校協働活動があります。具体的に例示されているのは、学校部活動ではなく、地域学校協働本部を中心として、地域での子ども

たちの活動、先ほど話にあったようなスポーツを楽しみたい子たちに関わるような提案があるので、そういうものは視野に入れておくべきだと思います。ただ学校部活動として広げて、地域から色々な人を招くのではなく、一つの地域の教育活動の核として本部活動をベースにしながら広げていくというのが、学校部活動ではない、いわゆる子どものスポーツ活動、文化活動の方向性としてははっきり出ているので、ぜひそういう方向は具体的にしっかり進めていっていただきたいと思っています。

### ○小林市長

続きまして望月委員よろしくお願ひいたします。

### ○望月委員

まず部活動の教育的意義というところから、資料を拝見しつつお話しさせていただきたいと思います。自主的、自発的な参加により行われる部活動とあります。合わせて、学校教育の一環として教育課程との関連を図ることができるというのが教育的意義として出ています。私も部活動は学校教育の一環であり、生徒の自主的、自発的な参加を促し、学業だけではなく、スポーツや文化、科学等に勤しむ中で、自身の内面を成長させるものだと認識しております。一つは責任感、連帯感など、いわゆる人間性の向上、またはアンケートにも出ていましたが技術を習得してより高みを目指そうという学習の向上性を会得するととても良い機会だと思っています。この中で、「小平市立学校に係る運動部活動の方針」及び「小平市立学校に係る文化部活動の方針」の策定も合わせて拝見させていただきましたが、昔に比べるとすごく配慮がされていると思います。先生方や、部活動指導員の皆様、部活動外部指導員の皆様の並々ならぬお力添えをいただいてこのような形が成り立っているのだと感じた次第です。

私はよく知らなかったのですが、小平第二中学校、小平第四中学校等の野球部は合同で実施しており、子どもたちの活躍の場、成長の機会が、地域の連携ではないですが、このような形で存続できている、可能性が残っているというのは非常にありがたいと感じています。現在、部活動を通して生徒自身もですが、先生との信頼関係も構築していると思います。実際に子どもたちから話を聞くと、「先生と色々話をした」、「先生からこんなこと言われた」など、コミュニケーションを非常に取るなど、先生からも教育的な指導などをいただける場になっていると感じています。

アンケートを拝見させていただくと、部活動を楽しみにしているというのが小学生に関しては約8割で、実際に取り組むにあたっての考えはどちらに近いですかというのは、楽しみたいという生徒は約7割いましたが、やはり高みを目指したいという回答も3割あるということでした。この両立は非常に難しいのかもしれませんが、いずれであったとしても、生徒の能力の向上や成長において、部活動は非常に大事な役割を担っているのを見て感じています。

すごく大事だと思ったのが、部活動に所属して困ったことを教えてくださいという質問があり、学業との両立が難しい、生徒や指導者との人間関係というのが回答の上位になっていますが、これはまさに自分の中で咀嚼して成長するための課題であり、私たち親としては、子どもたちに自分の中で解決してもらいたいし、社会に出ても、仕事でも両立していくというのは非常に大切だと思います。これは部活動に入ったことで学び、自分の中で解決し、そして自分として成長する非常に良い機会だと私は捉えています。まさにこの生徒や指導者との人間関係も一つの社会だと思います。そこを部活動が担っていると考えると、部活動の意義というのは非常に大きいと感じていますし、大変重要なことではないかと感じております。

また、先生へのアンケートの回答を見ますと、部活動の指導に対して負担に感じている。これはおそらくかなりの時間を要している部分があるものと思っています。このことに関しては本当に感謝しかありません。教育活動に多くの時間と労力を使っていた上で子どもたちを見てくださっていて非常にありがたいと思っております。その中で、部活動の意義や先生方の状況を考えると、先生たちに対しての協力や支援などは非常に必要があるのではないかと感じています。三町委員のおっしゃっていた通りですが、がんばっている先生から部活動や教育の状況を奪ってしまう状況を作らないというのが非常に大事だと思いますので、柔軟性をもって、部活動が地域に移行してしまっ、教育と離れてしまうということにはならないようご配慮をいただきたいと思っています。

また、部活動をしたいので教員になられたのであれば、部活動の指導を行うための教育的な研修や、一緒に考えていただきたい部分もあると思っています。小平市の教育の目標1に、「自分を認め 他者を認め 一人ひとりの子どもの良さや可能性を最大限に引き出します」とあり、これに関しては部活動の中で得られると考えています。また、「共生」を考えると、目標2に「学校・家庭・地域がつながり 持続可能な教育環境をつくります」とあります。部活動の地域連携や地域移行を考え、持続可能な状態として残していくということを考えると、目標2のところに当てはまるのではないかと思いますし、目標3には「貢献」として「一生涯にわたって学び継がれる小平の教育の好循環をつくります」とありますが、中学校の時の部活動や、スポーツ、文化活動のことは、学校を卒業した後も生涯的な趣味としてずっと残っていくものだと感じています。部活動というのは、小平市の教育の目標と非常に合致するものがあると思います。検討すべき項目も地域移行の中で増えていくと思いますが、部活動の充実は生徒の成長の機会創出であると思います。積極的な人的支援、財政支援も必要があると思いますが、地域の連携などの議論や促進をぜひ実施していただきたいと思います。

#### ○小林市長

すばらしい着眼点です。困っていることをなくしてあげようという配慮ではなく、それを子どもの成長する場にしていったらいいとは、目から鱗の着眼点だと思いました。

#### ○望月委員

これは、部活動がなかったとしても、別のところで出てくる問題だと思っています。逆に言うと、これが出てくるのは当然だと思っていますし、私は一つの狙いでないかと思っています。部活動をやったからこそその話ではないかと思っています。

#### ○小林市長

そうですね。時間は有限なものなので、それこそ部活動が終わって塾に行くなど、そういうスケジューリングなどは部活動をやっているからこそ、自分で考えないといけませんし、調整しないといけません。そういう調整能力も磨けるのだという理解でいけば、聞き方としては困っていることになっていますが、一方から見れば部活動をして成長できたことと捉えられるのかと思いました。

先生の支援として、先生たちが指導力をつけたいと思うのであれば支援したらいいのではないかとおっしゃっていましたが、負担になるという議論もあるのではないかと思います。いかがでしょうか。

## ○望月委員

おっしゃる通りだと思います。選択制であることは必要かもしれません。そうした機会を希望される教員の方もいらっしゃるでしょう、そうでない方もいらっしゃると思いますので、ご自身に選んでいただくというのが良いと思いますが、そもそも場がなければそういうことはできませんので、機会などをつくっていただくというのが必要かと思います。

## ○小林市長

おっしゃる通りだと思います。選択制であることが大事で、やりたいがそもそもそういう場がないというのはやはり課題かと思います。やりたい人がやれる場をとというのは一つつくっていかないといけないと思っています。

次に、吉本委員よろしく願いいたします。

## ○吉本委員

まずは検討委員会の皆様に感謝申し上げたいと思います。小平の誰も取り組んだことのないところをしっかりと回を重ねて検討していただいておりますので、会議録やアンケートを拝見させていただき、感謝しています。部活動について、小学校5・6年生の80%の子たちが中学校に入って部活動を楽しみにしており、また、部活動に参加している子どもたちの約73%が友達ができた、72%が活動が楽しいと回答し、上位となっています。私自身も部活動ではないですが、サッカーというスポーツを通じてこのようなことを感じながら過ごしてきたので、ぜひ継続的に実施していける形を皆さんと一緒につくっていかれたらと考えています。特に私が関わっていたサッカーもそうですが、チームスポーツなどは今後少子化によって部員数が足りなくなったという理由で試合に出られなくなったり、やりたい部活動が学校になくて、それによってスポーツに関わる子どもたちが減っていったりしないようにしたいと思っています。そこで、小平市の検討委員会でも検討していただいている国や東京都のガイドラインに基づいた地域連携や地域移行が求められてくると考えています。

就任時に市長からスポーツに関わることと、地域移行という課題に助言をと言われたので、私が現時点で小平の子どもたちについて考え、会議録やアンケートを拝見させていただいた中で様々な課題はあるのですが、今後継続可能な部活動にしていくために重要な課題だと考える3点について意見を述べさせていただきたいと思います。大前提として、提言や意見はできますが、そこに予算などが必要ということは理解しています。ただ、ここで話すことによって市民の皆様が現状を知っていただくこと、また、必要だと思っただけが重要ですし、教育委員会だけでなく様々な部署の方々の協力が必要だと思いますので、子どもたちのためにこの場で話をさせていただきたいと思います。また、私は三町委員のように教員の経験がないので、アンケートなどの統計的な視点で話をさせていただきたいと思います。

1点目は働き方改革を含むところですが、現在各学校1人と小平第三中学校に2人いる部活動指導員の方、及び52名いる部活動外部指導員の方を拡充していきたいと考えます。教員への、部活動を負担に感じているかという質問に対し、「そう思う」、「どちらかというと思う」という方が76.1%いました。理由としては校務が忙しい、教材研究ができない、休みがとれないということが68%前後で、それぞれが上位になっていました。教員の方が身体を壊さずに、子どもたちに対する教育をしっかりと行っていくことが子どもたちに必要なことだと思いますので、まずは引率のできる、顧問に代わる部活動指導員を各校2人ないし3人配置してもらえると少し負担軽減になるのではないかと思います。

2点目は、先程委員の皆さんが話をしていましたが、教員の方のアンケートで、部活動を地域クラブなどが担うことになったときに関わりたいという教員が28.6%いました。そこにすぐやりがいを感じてくれる方たちに指導する場を持ってもらうことも非常に重要だと私は思っています。地域連携だと部活動同士の連携ですので問題ないと思うのですが、今後、休日の地域移行となった際、これを部活動と考えるか、地域クラブの活動と考えるかという問題はあると思います。地域クラブの活動になったときに、やりがいを感じている方たちにそこで指導をしてもらえるような環境づくりが必要だと思います。先ほど三町委員が話をされていましたが、兼職兼業の事務規定などをどう考えるか、問題がないかを議論していく必要があると思います。この両者のバランスは非常に難しい問題だと思うので、他市他県で部活動コーディネーターという役割を担っている方や、部活動の地域移行について経験している方に話を聞くことも一つ重要かと思っています。私のスポーツのつながりの中でそのような人がいて、もし必要があれば話を聞けるようにお願いしたいと思うので、検討していただきたいと思います。

3点目は、今後継続可能な活動にしていくために、生徒の移動の問題が非常に重要かと思っています。具体的には自転車での移動ですが、自転車による移動の解禁をもう1回議論する必要があると感じました。これも地域移行を部活動と捉えるのか、地域クラブの活動と捉えるのかによって変わってくると思いますが、検討委員会においては、今年度検討から外すものに、通学方法の変更が必要なこと、自転車通学、公共交通機関による通学とあって、現在部活動については徒歩と公共交通機関という認識です。私が就任前に議論されたのかもしれませんが、9月の市議会定例会においてリスクとベネフィットを天秤にかけた時にリスクが上回ったということと、事故が起きた時の責任の所在の課題ということがありました。これを考えた理由の一つが、中学生の保護者アンケートで、中学校の部活動を地域クラブが担うことの心配事の1位が、活動場所への送迎の負担、50.2%だったので、保護者の方はそこが非常に心配なのだと思います。自転車であれば活動場所まで行くことができるため部活動を継続的に実施できる子どもがいて、それによって継続可能な活動になっていくのであれば、私はかなりベネフィットが大きいのではないかと感じました。今の私がリスクを全て具体的に把握しているわけではないので、今後考え方が変わるかもしれませんが、もし自転車の移動ができない場合はスクールバスなどを検討していく必要性もあるのではないかと感じました。

今後も子どもたちにスポーツに関わっていただきたいですし、ぜひ小平に関わる方全員、小平のために取り組んでいけたらと考えているので、よろしくをお願いします。

## ○小林市長

3点目について、自転車の議論がされたのは部活動の地域移行の話がなかったときですので、今回新たに地域移行など、中学校の部活動の議論の中で出てきたのであればもう1回検討することは間違いではないと思います。おっしゃる通り、送迎の負担は、保護者は非常に気になりますし、中学生はバス代も電車代も大人料金になりますので、保護者からすると本当に切実ではあります。今までは部活動は基本的に学校でやっていたし、普段歩いて学校に行っているのであれば徒歩でと整理したのだと思います。ただ、今回の吉本委員の提案もありますし、この点についてはすぐというわけではありませんが、考えていかないといけないのではないかと捉えています。

また、部活動指導員の課題もおっしゃっていただきました。最初におっしゃっていただいたように、予算との兼ね合いはあると思いますが、先生がついていないと土日の対外試合に出られないということではないということで、部活動指導員が果たす役割は大きいと思うので、部活動外

部指導員ではなく部活動指導員をどうやって増やしていけるか。やはり誰でもいいとはならないと思うので、どのように人材を求めていくかということについては先生も苦勞していると思います。部活動外部指導員もそうだと思いますが、先生の知り合いの中で声をかけてお願いして集めてくるというのではなく、市全体として人材バンクのような形にできれば、先生の苦勞もより一層減らしていけるのではないかと思います。また、2番目におっしゃっていた地域移行などをした後も部活動に関わりたいと思っている先生たちが継続的に関われる部分という点は他の委員からも意見がでましたので、引き続き配慮が必要ではないかと思います。

それでは青木教育長より、全体を通して、また、部活動のことなどを含めてお話いただきたいと思います。

### ○青木由美子教育長

小林市長には、第2回小平市総合教育会議を開催していただき、今回は、中学校の部活動に焦点をあてて市長と教育委員会とで協議・意見交換を行うことができ、誠にありがとうございます。私からは、教育委員の皆様のご意見等をまとめながら、検討委員会の内容等も踏まえ、考えなどを述べさせていただきます。大きく3つの視点でお話しさせていただきます。

今お話を伺っていて、各委員のお考えや市長のお考えが、私の考えと全くはずれておらず、嬉しいなと思いながらお話をさせていただきます。

まず、学校部活動の役割についてです。冒頭の事務局からの説明や資料にもあるとおり、部活動の教育的意義は非常に大きいものと認識しております。部活動は、学年、学級の所属を離れて、共通の興味・関心をもつ生徒が自主的な判断で参加し、顧問の指導のもとに自発的・自治的に展開する活動です。その部活動の役割として、例えば次のようなものが考えられます。5つほどにまとめてきました。1つとして「生徒の活躍の場である」ということ。2つとして「生徒の居場所である」ということ。3つとして「異年齢集団での活動である」ということ。このことは、日常の学級や学年での生活では得られない人間関係を形成することができます。4つとして「体験活動の場である」ということ。5つとして「活動や集団のルールやきまりを守ることが求められる」ことから、問題行動の抑制など生徒指導、生活指導にも有効な場であることなどが挙げられると考えます。これらの役割をもつ部活動を通して、豊かな人間性の育成、個性や能力の伸長、人間関係づくり、生涯学習の基礎づくり、所属意識や愛校心の涵養、健全育成などが期待できると考えています。

2点目は現状の部活動の課題です。指導や運営の視点からみると、多くの課題があります。中学校では高いレベルの指導を求められる部活動が少なくありません。

さらに、通常の業務以外に拘束される時間も多ことから部活動を担当する教員の不足が課題となっています。また、正規教員は3年から6年の期間で他校に異動することが必須となっております。教員の異動にあたっては、数学の教員が異動すれば数学の教員が入ってくるというように、その教科の教員は必ず補充されますが、部活動顧問の補充は約束されていません。

したがって、顧問がいなくなった部活動は、募集停止や廃部とするか、技術指導ができない教員が担当せざるを得ないことも現実です。また、教員の働き方改革が進む中で、部活動指導に負担感を持つ教員がいることもアンケート調査からも明らかとなりました。私も教員になりたての頃、異動により顧問が不在となった女子バスケットボール部の顧問になりました。全国ベスト4の記録をもつチームでした。私はバスケットの経験はなくルールすら知らない状況でしたが、毎日の練習メニューを考え、試合の時には審判もしなければなりませんでした。分からないことばかりで厳しい毎日でしたが、一方で学級担任や教科担任として以外に、部活動で生徒と関わるこ

とができた経験は、本当に大きく、その後の教員人生の中で非常に役に立ったと感じています。

このように、これまで学校が担ってきた部活動については、課題もありますが有意義なものであり、効果もあったと捉えています。しかしながら、中学生にとって意義の大きい部活動について、持続可能な指導体制を構築するためには、現在のような学校の体制だけでは無理があることは明確で、今後、地域の力を活用しながら、継続性、ニーズへの対応、生徒や顧問教員の負担軽減、運営の在り方などの課題を解決して進めていく必要があります、喫緊の課題と考えています。

3点目は地域連携、地域移行に関する課題についてです。これまで述べてきたように、学校、教員が続けていた体制では限界があることから、地域で育てていく環境を整備する必要があります。しかしながら、その地域での受け皿を整備していく課題もたくさんあります。

例えば、教育委員の皆様から上がってきたものばかりですが、8つほど挙げてみました。

まず、1つ目は、平日と週末の指導の一貫性。2つ目が、指導者の人材確保とその質の担保。3つ目として、現職教員が担う場合の兼業兼職の問題。現職教員の中には部活動指導を希望する教員も少なくないと考えます。私は昨年度1年間体育大学に在籍しておりましたが、学生の約8割が教職を目指している状況でした。日常の体育の授業を1年生から4年生まで、必修であらゆる種目を学び、さらに部活動で専門の高い技術を身に付けるわけです。接する学生たちが必死になって部活動に参加して技術を高める毎日なのです。学生が教職を目指すにあたっては自分の専門性を生かした教職人生を過ごしていきたいと思っているわけです。4つ目が、活動場所の確保と、用具や機材、楽器などを含めた施設設備の整備。5つ目として、生徒の移手段の検討です。私もバスケット部を担当していた時に、いかに安全に自転車で移動させるか。教員になった当初は東久留米市勤務で交通の便が悪かったです。遠くまで自転車で移動するので、私を先頭に1列で徹底した安全確保をしていましたが、それでも厳しかったです。そういったことを含めた移手段の検討が必要だと思えます。6つ目は大会参加に関する課題です。多くの文化部も運動部も合同部活での大会参加が可能となっているかと思えますが、そういうことが現実的にできていくのだろうかということ。7つ目として、公平な費用負担。今後どうしていくか、他地区の実証実験でも今は研究期間であることから、市がある程度予算を確保していますが、私費や会費等で顧問の負担をと考えられています。ただし、公正な費用負担と困窮家庭への支援など会費に関することも課題になると思えます。8つ目として、安全面、事故やケガへの対応やその責任の所在、そして保険に関する事など、課題は山積みだと考えています。

最後にまとめとして、今後の方向性についての考えですが、環境や生徒の実態は、学校によって異なることから、それぞれの学校が地域と連携し合い、持続可能な学校教育の在り方を探っていくことが大切であると考えています。校長を含めた管理職や地域教育コーディネーターやコミュニティ・スクールの委員、先程部活動コーディネーターという名前が出てきましたが、そのような人たちが推進力となっていけると良いと考えます。再来年度コミュニティ・スクールも全校設置になりますので、中学校の地域部活動をどうしていくのかということを考えていくことが有効なのではないか。そのために教育委員会として、市として、できること、やるべきことを整理し、地域とも連携を強化できる体制づくりをしていかななくてはならないと考えています。現在進めている検討委員会での検討内容を踏まえながら、事例研究を進め、可能な限り早期の実現を目指したいと考えます。新年度を迎えるにあたり、毎年必ず異動の対象となる教員がおりますので、顧問の確保が困難な部活動に焦点をあてることも事例研究をするきっかけの一つになるのではないかと考えました。

本日の会議を通して市長と教育委員会が意見交換を行うことで、さらに理解を深め合うことができたのではないかと思います。ぜひ、小平市の教育に関する事業が積極的に推進できますよう、

今後ともご支援のほどよろしく願いいたします。

○小林市長

ありがとうございました。他にご意見はありますでしょうか。

本日の協議において、部活動に対する教育委員の皆様のお考えをご披歴いただき、私も部活動の意義やその重要性などについて再確認するとともに、共感する部分が多々ありました。

現在、部活動地域移行・地域連携検討委員会においても様々検討していただいているとは思いますが、学校だけではなく地域の力により、生徒にとって望ましい部活動の実施環境を構築することが重要と考えております。

まだ見えてこない部分もありますが、中学生にとって充実した部活動が実施できるよう、引き続き議論を重ねていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(閉会)

○小林市長

それでは本日の議題は以上となります。

今年度の総合教育会議はこれで終了となりますが、来年度の総合教育会議も、本年度と同様の回数の開催を予定しておりますので、よろしく願いいたします。それでは、本日の会議はこれで閉会といたします。